

光で内外をつなぐ建築

指導教員 吉松 秀樹教授 印

1BEB1218 小川 ルビ

1. 建築における光

現在、設備の発展により、採光の機能が失われつつある。しかし人間は、四季折りの環境変化、太陽光や月光にもたらず日常の時間経過や変化とともに過ごしてきた。これらの変化を感じない生活は不自然で、人間的とは言えない。彩光によって自然や環境の変化を感じる必要があると考えた。

2. ライティングの効果

住宅は自然を遮断する壁面がある (fig.1)。この壁面をライティングの効果により、緩和したい (fig.2)。ライティングは空間を意識的に構成できる。



fig.1

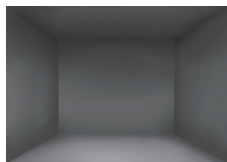


fig.3 奥行感



fig.2



fig.4 質感の表現

ライティング技法は外の環境と内部空間をつなぐ機能があると考えた。

3. 建築内でのライティングの要素

たとえば日本家屋における縁側はライティング技法におけるレフ版の機能を持ち、自然光を反射させ、内部空間に光をもたらす (fig.5)。縁側に続く障子戸はディフューザーの機能と同様に強い自然光を和らげ内部空間に光を回す。

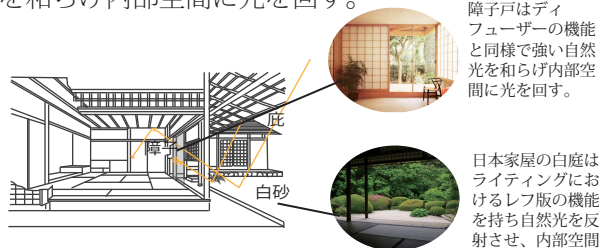


fig.5 日本建築からみるライティングの要素

障子戸はディフューザーの機能と同様に強い自然光を和らげ内部空間に光を回す。

日本家屋の白庭はライティングにおけるレフ版の機能を持ち自然光を反射させ、内部空間に光をもたらす。

4. 光を柔らかげる

いれこ状にし、採光を開けることで光が反射し内部空間に入り込む光を柔らかくすることが可能になる。屋根の軒を大きくすることでより入る光を抑えて地面で反射させてから内部へと光を通す (fig.6,7)。

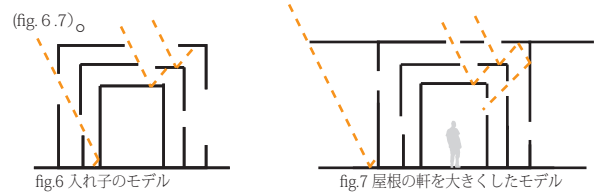


fig.6 入れ子のモデル

fig.7 屋根の軒を大きくしたモデル

5. 光によって内外を繋ぐ建築

柔らかい光を取り入れることで季節や日常の時間経過によって光が変化し、自然を取り込み内外を繋ぐ住宅を提案する (fig.8,9,10,11)。



fig.8

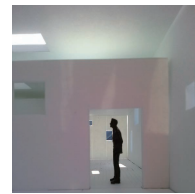


fig.9

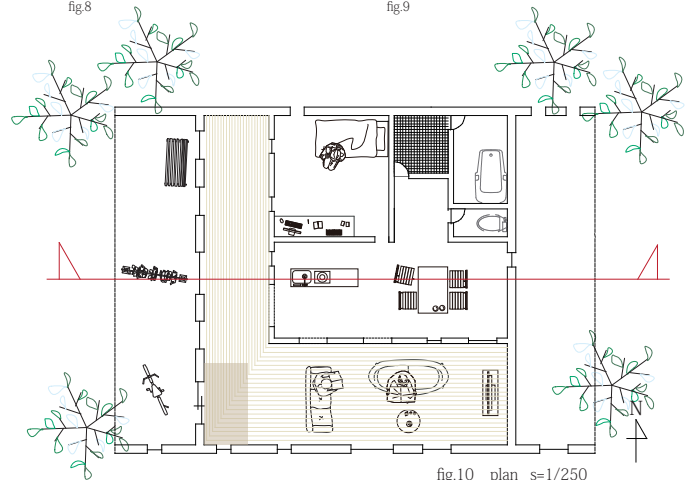


fig.10 plan s=1/250

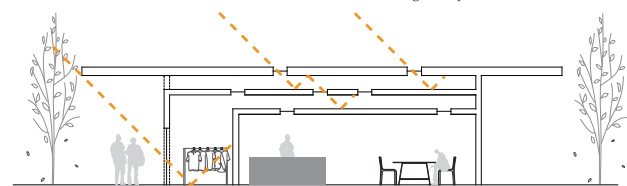


fig.11 section s=1/250